

視野を広げる環境



今から三年半前、長男が中学を卒業する直前、夫にタイ赴任の辞令が下りました。長女と次男は「行く！」と即答。長男は「行かない」と言いました。理由は部活。中学でバレー部に入り、中一・中二ではスタメンになれませんでした。中三になって「やっと試合に出れる」と意気込んだ矢先、コロナが始まりました。中三の一年間、公式戦はおろか、練習試合でさえ、ただの一度も開催されませんでした。

祖父母がすぐ近くに暮らしているので、長男のみ日本に残るという選択もできました。バンコクで高校に通うとなるとインターナショナルスクールになるわけで、行きたくない子連れて行ってもやっていけないですね。世の中でコロナはますます拡大していき、いつ収束するのか、見当もつかない時期でした。そういった情勢の中で、長男も日々悶々としていました。このまま日本に残ったとしても、

卒業式を迎えることができませんでした。この三年と三カ月、コロナに翻弄され、長男は高校生から外国で一人暮らしをすることに、家族全員の負担も増え、わざわざ家族でタイに行くことあった？ って話ですね（笑）。正解はないですが、それでも我が家にとっては家族で行ってよかったです。

長男の進路はまだ確定していません。が、将来は海外で働きたいそうです。そのために海外の大学に行きたいそうです。三年半前、タイ赴任が決まった時には「行かない」と言ったのに、「どの口が言うか」と夫と笑いましたけど。

世界各国からの生徒がいるインターナショナルスクールに通って、日本の経済がいかに弱いかを痛感したのだとか。他の国の子たちがアメリカやイギリス、カナダ、オーストラリアの大学進学を決めていく中で、日本人の自分にとってはそれらの国の

試合ができるようにはならないのかも：。「オレも行く」と言いだしたのです。

そうして家族全員でタイに引越したのですが、そのままハカ月間のロックダウン。辛かったのは日本では学校が再開されていたも、タイでは学校の再開が一番後回しになったことでした。学校がやっと再開され、ついに子供たちは初登校を果たし、通常に近い生活を送れたのは一年強。今度は夫に帰任の辞令です。

義務教育中の長女と次男は戻れる学校がありますが、高三になるうとして長男にはそれがありません。学生ビザを取得し、一人で一年以上タイに残り、今の学校を卒業することに決めました。私は日本とタイを行ったり来たり。夫は日本で長女と次男のお弁当を毎朝作り、長女と次男も家のことをよくやりました。そしてつい先月、長男は無事に

物価が高すぎて、あきらめるしかありません。行ける国は相当限られています。そういったことを彼は高校生の間にも目当たりしました。

長男は元来、視野が狭いタイプ。時に自分を俯瞰して見られるようになるというのですが、それって難しい。だから時々、強制的にも視野を広げる環境に身を置くことは、彼にとって人生のポイントになってくるのかも。これまでは我が家の転勤生活のせいで計らずもそうなっていました。が、これからは自分でやらなきゃ。本当に海外大学に進学できるかわかりませんが、彼が自分で決めたにしているいい選択だと思っています。



文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者。『ブラジルの
手しごと』著。
ジュエリーと世界の手仕事ワーク
ショップの店「メルカジニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。『ゆ
らゆらゆれる北欧風手作りモビ
ール』(ネコパブリッシング)を監修。